

令和2年度第2回香美市未来の森づくり委員会会議録（要旨）

1.開催日時、場所	令和2年11月25日（水）午後2時00分～ 香美市役所本庁舎3階302会議室
2.出欠、傍聴者数	出席者 13名（委員8名、事務局5名） 傍聴者2名
3.議題	<p>①令和元年度及び令和2年度の森林経営管理制度の取り組みについて</p> <p>②令和2年度及び令和3年度の森林環境税活用事業について</p> <p>③森林環境譲与税基金の積み立て及び取り崩しについて</p> <p>④森づくり部会の検討事項について</p> <p>⑤市産材活用部会の検討事項について</p> <p>⑥担い手対策部会の検討事項について</p> <p>⑦教育・普及PR部会の検討事項について</p> <p>⑧その他について</p>
4.会議内容	<p>①令和元年度及び令和2年度の森林経営管理制度の取り組みについて 事務局から資料1に基づき森林経営管理制度について香美市の取り組み状況等を説明。以下、委員からの主な意見等。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意向調査の回答結果について、未返信とは調査票が届いていないのか、届いたが返信がないのかどちらか。 (事務局) 届いているが返信がない人を表す。 ・森林組合の人手不足について相続登記を促進するような支援や、職員数を増やせるような支援はできないか。 (事務局) すでに新規雇用者に係る人件費に対する補助事業は実施しているが、雇用から即戦力になるわけではなく、早急な解決は難しい。 また、相続登記については、国の法改正等の情報もあるので、そちらに注目したい。 ・資料1は専門用語が多く、林業になじみのない市民には分かりづらいと思う。市民に広くPRするならわかりやすい資料にするべき。 (事務局) PR時には資料の見直しを検討する。 <p>②令和2年度及び令和3年度の森林環境税活用事業について 事務局から資料1に基づき森林環境税活用事業の予定等について説明。以下、委員からの主な意見等。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度に実施予定の新規事業はなにか。 (事務局) 令和2年度補正予算で追加した森林整備事業の新規メニュー（森づくり支援事業）を令和3年度も実施する予定。また、子ども林業大学校については令和3年度から本格的に開始するための委託費を計上する予定。 <p>③森林環境譲与税基金の積み立て及び取り崩しについて 事務局から今後の基金の活用方法や予定について説明。以下、委員からの主な意見等。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料が分かりづらい。 ・市産材を活用したことを明示するプレートのデザインを決めてはどうか。

(事務局)

資料については今後分かりやすいものを検討する。市産材普及 PR 事業においてプレートのデザインまで指定する予定はない。

④森づくり部会の検討事項について

事務局から資料3を用いて香美市森づくり構想(案)について説明。以下、委員からの主な意見等。

- ・客観的な指標として相対間距比と収量比数どちらも構わないが、着色の意味については資料内で一貫性を持たせてはどうか。
- ・ゾーニングの基礎資料としてはよくできていると思うが、香美市としてどのような森づくりを目指すかという内容を追加してもらいたい。
- ・森林整備というハード事業のスタンスで作成されているので、市民目線で市民と森づくりの関わり合いを感じさせるような内容が欲しい。

(事務局)

本日の意見等を踏まえ、森づくり部会で内容について再度検討したい。

⑤市産材活用部会の検討事項について

事務局から資料4及びレジュメを用いて市産材活用部会の検討事項について説明。以下、委員からの主な意見等。

- ・高齢者施設で使用する木製品キットについて、値段は高いかもしれないが、土佐組子の製品があるので検討してはどうか。
- ・事務机・カウンター板は地元で加工するのか。
- ・カウンター板は物部森林組合に乾燥した1枚板があるので活用してはどうか。
- ・現在、県補助でもJAS認定の要件が出てき始めており、業界の流れとしてはJAS取得が要請されている。機械等級の取得は大変だが、目視等級の取得を市内製材所が目指してはどうか。費用面が問題なら市が支援できないか。
- ・県外に木材を売り込むならJAS認定取得が必須。
- ・昔は自分の製材所でJAS(目視等級)を取得していたが、JAS等級の判定に対応した人材の確保が必要。
- ・機械等級や印字が必要なら大手との競争になってくる。SGEC、FSC認証、CoC認証など大手と競合しない認証を目指してもいいかもしれない。
- ・香美市がどう考えるか、製材所がどう考えるかを決めないと前に進まない。

(事務局)

・事務机は集成材を使用するので、大正製材への依頼を想定している。カウンター板については物部森林組合に別途相談させていただきたい。市産材の事務机等への活用は委員会です承を得られたということで進めさせていただく。

・JAS認定、森林認定については今後、市内製材所の意見を聴取し、市の方向性も検討したい。

⑥担い手対策部会の検討事項について

事務局から資料4、5及びレジュメを用いて担い手対策部会の検討事項について説明。以下、委員からの主な意見等。

- ・県内大手工務店でも後継者不足は表面化しつつあると思う。北山氏の講演の肝は手加工を一定経験しないと災害時の住宅復旧は難しいというこ

と。ハウスメーカーは災害住宅については建て直しを勧めるだろう。
・いろいろな世代の大工の意見を聞いて議論をしてもらいたい。
・資料5のグラフについて指摘あり。
(事務局)
・今後も継続して大工への支援は検討したい。資料5については後日訂正したものを提出する。

⑦教育・普及 PR 部会の検討事項について

事務局からレジュメを用いて担い手対策部会の検討事項について説明。以下、委員からの主な意見等。

- ・広報掲載記事について、林業機械の紹介を広報に載せることに賛成だが、クイズ形式にするなど興味を引く形を検討してはどうか。
- ・大工の道具も載せてはどうか。

(事務局)

- ・高性能林業機械も広報の記事対象とする。

・森づくり構想のリーフレットについて、だれが見てもわかるように地名等を追記してはどうか。

- ・文章の表現が分かりづらい（「環境保全林」、「自然循環利用林」など）。
- ・専門的な内容は控えたほうが良い。
- ・A3 見開き 1 ページ程度がいいのではないか。

(事務局)

- ・本日の意見を踏まえてリーフレットの内容について検討する。

- ・木の学校について R2 年度の活動内容についても PR してはどうか。
- ・R3 年度開催の木の学校についてはいつ広報するのか。
- ・各学校に直接 PR しに行ってはどうか。（全校集会の時など）
- ・木の学校の対象者は 15 人なので、広く木の学校の内容を伝えてもらいたい。

(事務局)

・R3 年度開催内容の告知については当初予算議決後でないといけないと思うが、活動内容の PR については HP、公式フェイスブック等を活用する予定。学校行事のスケジュールとの調整もあるので、詳細については今後検討する。

- ・各校への PR についてはチラシ配布で行いたい。

⑧その他について

次回の部会長会は R3. 1. 13、委員会は R3. 2. 24 で調整することとした。